

科目番号	52023	分類	実践助産学	履修者	高度実践助産コース	学年		
科目名	助産学基礎実習 (Practicum for basic midwifery)					1		
						配当シスター		
						後期		
担当者	○橋本 美幸、平出美栄子 関屋 伸子、小嶋奈都子 加藤知子、田中 恵子	区分	助産師免許取得プログラム	必修	単位	4	時間数	180
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連		
1. 助産学実習の目的 生理的な経過をたどる妊産褥婦・新生児への助産ケアについて科学的根拠に基づいて考え、実践できる能力を養う。母子とその家族を継続的・総合的に理解し、個別性を踏まえた助産ケアを実践する能力を養う。健康の保持増進のための健康教育および育児支援の重要性を理解する。これらの実践を通して、助産師の責任と役割を理解する。						○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力	
2. 実習目標 1) 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を理解することができる。 2) 妊娠、分娩、産褥、新生児の各期の助産診断ができる。 3) 妊娠、分娩、産褥、新生児の各期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案、実施、評価できる。 4) 対象の個別性や優先順位を考慮して助産ケアの実践ができる。 5) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の継続したケアを通して、母子および家族への個別的なケアの必要性、重要性を理解できる。 6) 自分の行った助産過程を振り返り、自己の課題を明確にし、実践につなげることができる。 7) 周産期に必要な保健医療チームとの連携、助産師の責任と役割について考えることができる。						○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力	
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力	
							4.周産期の救急時に対応できる能力	
							5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力	
							6.研究・開発能力	
						○	7.倫理的意思決定能力	
3. 実習時期 1) 基礎実習前期 平成29年8月14日～8月25日 2週間 2) 基礎実習後期 平成29年12月4日～12月15日 2週間								
4. 実習場所 国立病院機構東京医療センター、国立病院機構相模原病院、国立病院機構埼玉病院								
5. 実習方法 1) 助産学基礎実習前期 ・生理的な経過を辿っている褥婦と新生児 1例以上を受け持ち、対象の助産診断、助産計画立案、助産ケア、保健指導を行い、その評価を行う。 ・妊娠中期と後期の妊婦各1例、合計2例について、助産診断を行い、必要な助産計画立と保健指導案を立案する。 ・正常な経過を辿っている分娩第Ⅰ～Ⅳ期の産婦を受け持ち、助産診断を行い、指導助産師と共に助産ケアを行う。 2) 助産学基礎実習後期 ・正常な経過を辿ると予測される分娩第Ⅰ～Ⅳ期の産婦3例を受け持ち、分娩介助を行う。 ・ベビーキャッチおよび外回りなどの間接介助を2例以上行う。 ・産科外来で正常な経過を辿っている妊婦を受け持ち、助産診断を行い、指導助産師と共に助産ケアを行う。								
事前・事後学習	事前学習：前期に開講された授業内容を復習しておくこと。 事後学習：自己学習ノートを作成し、実習における学び、理解できたこと・不十分なことをまとめること 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み組むこと。							
評価の方法	実習目標の達成度による評価を行う（実習記録 40%、カンファレンスとレポート 20%、実習状況 40%）。 フィードバックは適宜行う。							
参考図書・資料等	妊娠期・分娩期・産褥期診断技術学で用いた参考図書							
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 履修要件：妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各助産診断・技術学の筆記試験・技術試験に合格すること							